

映像版教員シーズ集の試み

○澤田芳郎・李濟民

(小樽商科大学ビジネス創造センター)

1. はじめに

産学連携コーディネートの一連のプロセスにおいて、特に初期段階で機能することが期待されるのが「教員シーズ集」である。草創期の共同研究センターにとっては制作費の捻出も容易なことではなかったが、法人化前後から取材、執筆へのライターの起用など、編集にコストをかけられるようになった。現在では多くのセンターが工夫を凝らした冊子を公刊し、WEBにも掲載している。

しかし、それらがコーディネートの契機になることはほとんどないのではないかと要するに読まれないのである。表現に工夫を重ね、図版を多用しても、学術研究が要求するコンテキストの共有は難しい。広報誌に1～2名ずつ載せて読者の負担感を緩和するのがせいっぱいである。

2. 映像メディアの活用

ここで当センターが着想したのが「映像版教員シーズ集」の制作である。映像作品とは、語弊を恐れずに述べれば、「妄想」を喚起する装置である。そしてそれらが当該映像作品に「収容」されるという相互作用が成立するかぎり、コンテキストの直感的共有が可能になる。誤解を招きやすい面はあるが、制作者と視聴者の双方が限界をわきまえているかぎりで有効なメディアである。

このような考えから当センターでは、2011年度、下記4本の教員紹介映像を試作し、おりおり依頼されるセンター紹介講演の末尾に上映してきた。経験則としては、①1本の長さは3分程度にする、②短い抽象的説明のあとに音楽付きで静止画像等を入れる、③1回の上映を3本以下にとどめる—ことによって熱心な試聴を確保できる。図1は撮影前に作成した実際の構成案である（この段階で関係者に開示し、撮影許可を得た）。映像ドキュメンタリーは多くの場合、撮影後の再構成が必要になるが、本編の場合はほぼ構成案どおりのものとなった。

- マジ 本気プロ（大津晶准教授）2分59秒
- 函館マリバイオクラスター（近藤公彦教授）3分04秒
- 北海道産の食品、食材に関する日韓共同マーケティングリサーチ（八木宏樹教授）2分57秒
- 地域まるごと元気アッププログラム（相内俊一教授）3分34秒

3. 効果とコスト

映像版教員シーズ集は教員個人個人にとってはプロモーションビデオである。一方、多くの教員の紹介によって研究コンセプトの多様性が表現できれば、大学としてのポテンシャルのアピールになる。人々は大学へのステレオタイプの理解は十分持っており、それを塗り重ねるような大学紹介映像にはあまり意味がない。ここで求められるのは個々の教員がどのような研究をしているかである。視聴者はその理解を通して教員の人格さえ把握しようとするが、それもまたチャンスである。

ところで、映像版教員シーズ集は教員一人あたりの制作コストが冊子のそれを下回ることは考えにくい。我々の場合は発表者の一人である澤田がたまたま映像編集の技量を多少持っていたことで実現したが、低価格のデジタルビデオカメラや映像編集ソフトの普及により、映像センスの潜在的持ち主が発掘される機会は増えている。この点で期待できるのが学生であり、我々もすでに映像制作授業の受講者や学内の映像サークルのメンバーの無理ない範囲での起用を開始した。

今後は完成した教員紹介映像のWEB掲載（動画サイト掲載を含む）やDVDによる配布なども考えられるが、その効果については別途検証が必要であろう。

図1. 「函館マリンバイオクラスター」(近藤公彦教授)の構成案

項目	時間	映像	音声
タイトル	10秒	●タイトル「函館マリンバイオクラスター／商学研究科アントレプレナーシップ専攻／近藤公彦教授(マーケティング論)／2011年度から文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム「函館マリンバイオクラスター」に参加し、北海道大学大学院水産科学研究院、北海道立工業技術センターの研究者らと事業計画を検討中」	
事業化・マーケティング戦略会議	30秒	●意見を述べる近藤公彦教授。テロップ「2011年8月29日／函館マリンバイオクラスター「事業化・マーケティング戦略会議」にて」 「小樽商科大学／近藤公彦教授」 ●対応する齊藤誠一教授。テロップ「北海道大学／齊藤誠一教授」	近藤教授と齊藤教授の声(ピンマイク)
研究テーマ紹介	40秒	●函館マリンバイオクラスターの研究活動紹介(テーマ①～④を2面ずつ)。研究テーマ名と代表的図版 ●プロジェクト概念図(ズームバック)	音楽A 音楽A終わる
近藤教授インタビュー	80秒	●タイトル「函館マリンバイオクラスターが成功するには」 ●語る近藤教授 ●図版「参加組織一覧」 ●会議室の近藤教授と澤田 ●会議室全景 ●語る近藤教授	近藤教授の声(ピンマイク) 音楽B始まる
函館遠景	15秒	●函館遠景(ズームバック)。テロップ「国際水産・海洋総合研究センター／建設予定地」	音楽B盛り上がり終わる
クレジットタイトル	5秒	●タイトル「協力 近藤公彦／特別協力 齊藤誠一／特別協力 公益財団法人函館地域産業振興財団／企画 李濟民／構成・撮影・編集 澤田芳郎／撮影 出雲未希／製作 小樽商科大学ビジネス創造センター／2011年9月」	